

令和6年度の工事（～令和6年12月）について

令和6年度の前半は、工事を始めるにあたっての周辺整備、建物を覆う素屋根の建設、茶室棟の茅葺きと屋根瓦の取り解き作業を行いました。

○周辺整備



素屋根を建設するにあたり、支障の出る樹木を伐採しました。

○素屋根の建設



茶室棟は各建物が渡り廊下で複雑につながっているため、玄関・寄付棟と香雪・玄庵に分けて素屋根を建設しました。

○茅葺きの取り解き



修理前の玄庵は茅葺きに傷みが生じていたため、シート養生されていました。



茅葺きを取り解いたところ、下地の竹が虫害により腐朽していました。

○屋根瓦の取り解き



修理前の寄付の屋根。瓦との境界付近の銅板に穴が開いていました。



瓦を取り解いた状況。葺土が2種類あり、部分的に葺き替え工事が行われていたことがわかりました。

重要文化財・旧村山家住宅書院棟ほか3棟 保存修理事業 第1号
発行日 令和7年3月
発行 公益財団法人香雪美術館（神戸市東灘区御影郡家2-12-1）
編集・協力 （一財）京都伝統建築技術協会〔設計・監理〕・（株）安井奎工務店〔施工〕



重要文化財

旧村山家住宅書院棟ほか3棟 保存修理事業



公益財団法人香雪美術館が管理する重要文化財・旧村山家住宅では、令和6年度より5年間で、書院棟ほか3棟の保存修理工事が続いています。工事の概要と、これまでの事業内容をお知らせします。

令和7年3月

公益財団法人香雪美術館

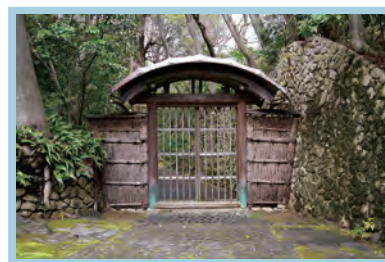
第1号

重要文化財旧村山家住宅について

旧村山家住宅は、朝日新聞の創業者、村山龍平が神戸・御影に建てた居宅です。自然の起伏を活かした広大な敷地の南半中央に書院棟、書院棟東側に洋館および玄関棟、北側に茶室棟が配置され、おのおの渡り廊下でつながっています。

洋館は明治41年6月上棟、茶室棟のうち、茶室玄庵（げんなん）より北の各棟は明治44年の上棟、衣装蔵は、明治45年の建築とみられます。書院棟は大正7年の上棟で、玄関棟、美術蔵、玄庵と書院棟をつなぐ渡り廊下と茶室香雪も、この時期の建築とみられます。

明治から大正にかけて阪神間で発展した邸宅群の先駆であり、和洋館が並立する大規模住宅として、平成23年6月20日、洋館、書院棟、玄関棟、茶室棟、衣装蔵、美術蔵の6棟の建物と土地が「旧村山家住宅」として国の重要文化財（建造物）に指定されました。



編笠門（大正年間の建築か）



美術蔵（大正7年ごろの建築か）
鉄筋コンクリート造の3階建てで、1階はピロティ、2、3階は収蔵庫。



洋館（明治41年6月上棟）
地階と1階部分は煉瓦造。2階は木造。設計は建築家の河合幾次。



露地施設（腰掛）



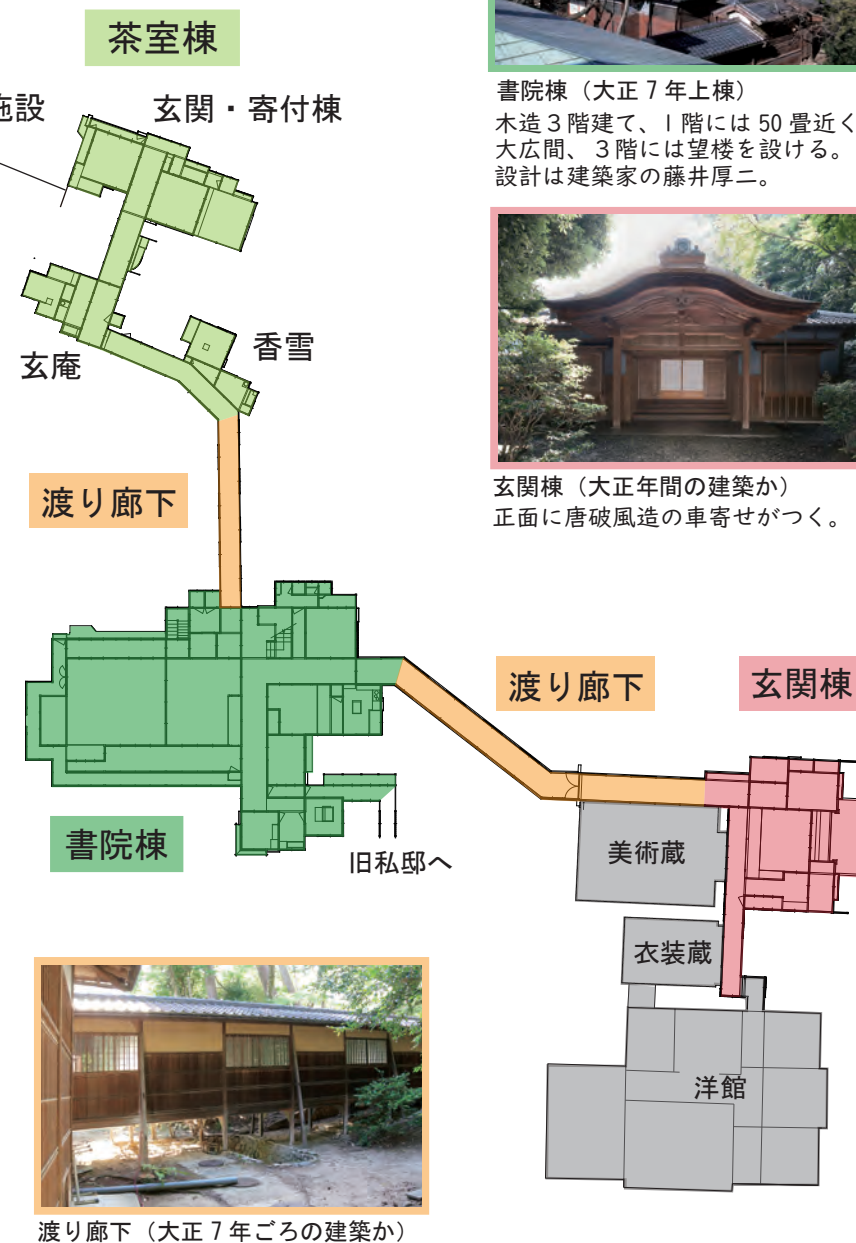
玄関・寄付棟（明治44年上棟）
東側（写真奥）に玄関と待合、西側（写真手前）に寄付を置く。



玄庵（明治44年上棟）
藪内流家元の茶室「燕庵」の写しである一畳の相伴席付三畳台目茶室。



香雪（大正7年ごろの建築か）
四畳半の茶室。



書院棟（大正7年上棟）
木造3階建て、1階には50畳近くの大広間、3階には望楼を設ける。設計は建築家の藤井厚二。



玄関棟（大正年間の建築か）
正面に唐破風造の車寄せがつく。



渡り廊下（大正7年ごろの建築か）

重要文化財の保存修理工事について

旧村山家住宅の建物は、平成7年に阪神・淡路大震災で被害を受け、復旧のための修繕が行われました。震災復旧から30年余りが経過し、令和3年ごろから雨漏りが頻発するようになったため、行政協議を経て国の補助事業で全面的に修理を行うことになりました。

今回の保存修理工事では、重要文化財に指定された建造物のうち、茶室棟（露地施設含む）、書院棟（渡り廊下含む）、玄関棟（渡り廊下含む）、編笠門の屋根葺き替え工事と、部分的な修理工事を行います。また、書院棟、玄関棟、渡り廊下については耐震診断を行い、補強が必要と診断された場合は、耐震補強工事も併せて行う計画です。

工事は、令和6年度から、茶室棟、書院棟、玄関棟、編笠門の順で5年間をかけて行う予定です。

建 物	R6	R7	R8	R9	R10
茶室棟 露地施設					
書院棟					
玄関棟					
編笠門					